

日本共産党議員団でアンケートに取り組んでいます

日本共産党議員団はこのほど、新型コロナウイルス対策の一環として、市民の皆さんにアンケートのお願いをすることにしました。アンケートの提出期限は設けてありませんが、なるべく早くいただくと議会論戦などで活用できます。どうぞ、よろしくお願ひします。

よろしくお願ひします。

ご協力いただける方は、左のアンケート用紙にご記入の上、点線部を切り取って、ファックスで025-548-3628に送信して下さい。ファックスがない場合は、直接伺います。携帯電話、090-5392-1961にご連絡ください。



写真は頸城区の畑ヶ崎にて18日、撮りました。



【ナツトウダイ】トウダイグサ科の多年草。漢字で「夏燈台」と書きます。「ナツ」という名前が着いていますが、花は黄色です。茎は20センチから40センチほど。花期は4月～6月です。初めて出会ったのは10数年前、吉川区坪野の道端でした。花言葉は「控え目」「地味」。5月17日、吉川区小苗代にて撮影しました。

ストップ! 感染爆発 医療崩壊 暮らしといのちを守る 「新型コロナ」お困りごとアンケート

上越市議会日本共産党議員団は、「新型コロナウイルス感染症」が拡大する中、みなさんの声を厚め、国会議員団とも連携して困難を打開してまいります。以下のアンケートにご協力ください。

1

1人10万円の給付金……市からの申請書が届いています。

- 「自分は対象者ではない」と思っていないですか？
- 申請書の記入で心配はありませんか？ 不安はないですか？

2

「新型コロナ」問題に関わって、不安なこと、困っていることをお聞かせください。(いくつでもどうぞ)

- 感染が不安
- 仕事を失った(内定取消・雇止め・シフトはずしを含む)
- 収入が減った
- 経営の先行きが見えない
- 勉強が遅れる
- 必要な支払いができない
- 休み(在宅)を希望したが認められない
- DV(家庭内暴力)が心配
- 休校の場合、子どもの対応ができない
- 支援制度の内容がわからない
- 申請の窓口・相談する窓口がわからない
- 支援の受け方(手続きの方法)がわからない、できない
(インターネットの操作・書類の準備など)

3

差し支えなければ、上記の詳しい内容をご記入ください。その他、お気づきの点、ご意見、お困りごとをお書きください。また、国や自治体への要望などをご自由にお書きください。

このアンケートは、右の各議員にお届け、または連絡ください。書き込むスペースが足りない場合は、裏面もご利用ください。

橋爪 法一 090-5392-1961、Fax 025-548-3628
上野 公悦 090-7260-9407、Fax 025-530-2348
平良木 哲也 090-1808-6919、Fax 025-522-5812

お困りごとは何でもご相談ください。お力になります。

はしづめ法一の
活動レポート

No.1960 2020.5.24

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第六〇七回

六〇年前のお礼

まだ一度も会ったことがないので、とても親しみを感じる女性がいます。

上越市在住の古澤かをるさん。戦後復興期に旧吉川町の川谷小学校や吉川小学校で教鞭をとられた方です。

昨年、ある人から薦められ、古澤さんのエッセイを読む機会がありました。エッセイは二つ、「窓いっぱい」 ひかり輝く妙高連山ながめながら」と「川谷の野の花よありがとつ」というタイトルでした。

どちらともいまだ六〇年ほど前の思い出を綴ったものです。浦川原、吉川の山間部の地名、風景、野の花などが登場していたこともあってとても身近に感じ、一気に読みました。戦後間もない頃の頸城鉄道、バスなどの交通事情や学校の様子も生き生きと書かれています。

いずれのエッセイも吉川タイムズのホームページで読んだのですが、私が文章の中で特にひきつけられたのは、上猪子田から名木山までの雪道を歩いたときの話です。

上猪子田から名木山までは距離にすれば五百メートルほどの道ですが、大雪でまったく道がなくなっている中、雪をかき分けながら歩いたとありました。しかもここは、雪崩の危険もある場所でした。私も虫場と村屋間を歩く時に似たような経験をしましたので、ハラハラドキドキして読みました。

もうひとつ、一本の茎に百個の花がついたというヤマユリの話にも引き込まれました。七月の中旬頃のことでしょう、野良着姿の女性が山でこのヤマユリを見つけ、先生たちに見せてあげたくて、鎌で切って学校へ持って行ったというのです。昔はこういう学校思いの人が何人もいましたね。

ふたつのエッセイを読んだ後、古澤さんとはいつか会って、話をしてみたいものだと思います。その後、古澤さんに会う機会に恵まれず、時間が過ぎていきました。が、思いがけないことがこの五月の中旬に

起きました。

上越妙高駅に近いところに住むMさんからお連れ合いを通じて、手紙とコピーが入った大きな封筒を渡されたのです。

Mさんは元小学校の先生です。「川谷のことが書いてあって、とても心を打たれたので、橋爪さんに読んでほしくて」と渡してくださったのですが、その中のコピーは、何と古澤さんの二つのエッセイとMさんへ宛てた古澤さんの手紙だったのです。いずれも、古澤さんの手書きでした。

見た瞬間、きれいな文字だと思いましたが、それにエッセイだけでなく、Mさん宛ての手紙の内容もまた素敵でした。

手紙には、六〇年ほど前のことが書かれています。村屋までバスで行ったものの、あたりが暗くなってしまった。そのとき、「先生、これから川谷までは危ないから、オラチで泊まっていきなさい」と声をかけてくださり、お世話になった家がある。何もお礼しないまま六〇年余りが過ぎ、いまだに気になっている、とあったのです。その家はバス停のすぐ上の家だとも書いてありました。

バス停の上に家は一軒しかありません。私の友人の家です。私はじっとしていられなくなり、Mさんを通じて古澤さんの連絡先を聞き出し、電話をかけました。

古澤さんはとても喜んでくださいました。「尾神にあるアケビの色は最高でした」「ミヤマツも食べましたよ」「トヨコさんもセッコさんも私の教え子です」と語ってくださいました。私についてもご存じで、「K先生の教え子でいらっしやいますよ。夫が死んでもお世話になってます」などと言われ、話は弾みました。

最後に、新型コロナウイルスが収まったら、一緒にバス停のすぐ上の家に行きましょう、と約束をしました。出来れば、しだれ桜の咲く頃におじゃましたいものです。

特別委設置し、6日間で緊急提言



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	5月13日(水)	5月20日(水)
上越南消防署	0.040	0.050
上越北消防署	0.043	0.047
新井消防署	0.043	0.050
頸北消防署	0.050	0.053
頸南消防署	0.057	0.063
東頸消防署	0.047	0.050
高士分遣所	0.053	0.057
名立分遣所	0.057	0.050

新型コロナウイルス調査対策特別委員会は18日夕方、新型コロナウイルス対策の緊急提言をまとめ飯塚議長に提出。飯塚議長はただちに村山市長に手渡しました。議会が市民の切実な問題をとらえ、短期日のうちにまとめた点でも、議員全員の見識を集める努力をした点でも、上越市議会としては、かつてない取組となりました。

提言書では、「市議会においても、市民を代表する立場からあらゆる知恵を絞りながら、この難局を乗り越えていく必要がある」とし、緊急提言を次の3つにまとめました。

1 各種支援制度のワンストップ相談窓口の設置

特別定額給付金など、支援が必要な市民や市内事業者が容易に手続できるように、市役所や

出先機関で様々な相談を受け付けるために、専門家も配置したワンストップ相談窓口を設置すること。

2 固定費の負担軽減への支援(固定資産税、公共料金等の減免)及び各種給付金や助成金の増額・給付期間延長等

固定資産税や公共料金などを減免するほか、市独自の各種給付金及び助成金の増額・上乗せや給付期間延長を行うなど拡充を図ること。

3 出口戦略の構築 PCR検査等実施体制の充実

市独自のPCR検査、抗原検査などの検査体制の充実に向け、民間医療機関などの活用を進めると共に、国、県等へ強く働きかけること。

